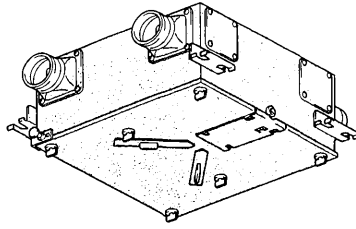


ロスナイセントラル換気ユニット **住宅用**

形名

- VL-150CZ3, VL-200CZ3
- VL-10CZMH-L, VL-10CZMH-R
- VL-12CZMH-L, VL-12CZMH-R
- VL-150ZM, VL-200ZM
- VL-150PZM, VL-200PZM



取付工事説明書

販売店・工事店さま用

- この製品は住宅の天井（天井埋込形）に取付けてください。それ以外の用途（業務用など）には使用しないでください。故障の原因となります。
- 排気グリルにはハニカム状フィルター付または不織布フィルター付のものをご使用ください。（上記フィルターをご使用にならない場合はエレメントの目詰りや、風量低下の原因になります。）
- この製品は24時間換気システムとしてご使用ください。
- この製品の性能、機能を十分発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付工事が必要です。取付工事の前に、この取付工事説明書をよくお読みください。
- 取付工事は販売店さま、または専門の工事店さまが実施してください。間違った工事は、故障や事故の原因となります。
- お客さま自身での工事は故障や事故の原因となります。

別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡しください。

本書は機種タイプごとに右記マークをつけています。お買い上げの機種名とタイプをご確認のあと、説明書をお読みください。

CZ3タイプ	VL-150CZ3, VL-200CZ3
CZMH-L, Rタイプ	VL-10CZMH-L, VL-10CZMH-R VL-12CZMH-L, VL-12CZMH-R
ZMタイプ	VL-150ZM, VL-200ZM
PZMタイプ	VL-150PZM, VL-200PZM

安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

注意 誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

警告	
<p>禁止</p> <p>●交流100V以外では使用しない。 (直流や交流200Vを使用すると火災・感電の原因)</p>	<p>指示に従う</p> <p>●指定の電線を使用して、抜けないよう確実に接続する。 (接続に不備があると火災の原因)</p> <p>●配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う。 (接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因)</p>
<p>分解禁止</p> <p>●どんな場合でも改造しない。 (火災・感電・けがの原因)</p>	<p>指示に従う</p>
<p>浴室使用禁止</p> <p>●浴室など湿気が多い所には、本体および壁スイッチを取付けない。 (感電・漏電の原因)</p>	<p>指示に従う</p>

<p>浴室使用禁止</p>	<p>●浴室など湿気が多い所には、本体および壁スイッチを取付けない。 (感電・漏電の原因)</p>	<p>指示に従う</p>	<p>●メタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取付ける。 (漏電した場合発火する原因)</p>
<p>指示に従う</p>	<p>●外気の取り入れは、燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ。 (新鮮な空気が取り入れられず、室内が酸欠状態になる原因)</p> <p>●本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行う。 (落下によるけがの原因)</p>	<p>アース線接続</p>	<p>●アースを確実に取付ける。 (故障や漏電のときに感電する原因)</p>

注意

禁止

- 高温となる場所や直接炎があたったり、油煙の多い場所には取付けない。
(火災の原因)
- 右表の使用条件を越える場所には取付けない。
(使用条件を越えた場合、結露水が滴下することがあります)

機種	外気温度	本体周囲露点温度
ZMタイプ	-5℃~40℃	12℃(20℃ 60%相当)となる絶対湿度以下
PZMタイプ	-20℃~40℃	
CZ3タイプ		
CZMHタイプ	-30℃~40℃	

指示に従う

<本体>

- 本体およびダクト配管は断熱層・気密層の内側に設置する。
(断熱層の外では、熱回収した空気温度の低下や、ドレンの凍結などの発生原因)
- 本体は水平から下りこ配1°(ドレン配管口へ)の範囲で固定する。
(水漏れにより天井を濡らす原因)
- 端子台カバーや本体カバーなどは操作後、必ず閉める。
(ほこり、湿気などの侵入により、漏電・火災の原因)
- 取付け後長期間ご使用にならない場合は、必ず分電盤ブレーカーを切る。
(絶縁劣化による感電や漏電火災の原因)
- 取付けの際は必ず手袋を着用する。
(けがの原因)
- 部品の取付けは確実に行う。
(落下によるけがの原因)

指示に従う

<ダクト配管>

- ダクト配管は断熱層・気密層の内側に設置する。
(断熱層の外では、熱回収した空気温度の低下や、ドレンの凍結などの発生原因)
- ダクト配管は必ず指定の位置に設置する。
(⇒外形寸法図 ■点検口配置図)
- 点検口は必ず指定の位置に設置する。
(⇒外形寸法図 ■点検口配置図)

<ダクト配管>

- ダクト配管は本体から室外側のダクトは室外に向かって1/30以上の下りこ配になるように取付け、断熱処理を確実に行う。
(雨水の浸入による感電・火災や家財の破損の原因)

<ダクト接続口は根本部まで断熱する。>

- 給排気ダクトの先端には、雨水、雪、小動物(こうもり等)が侵入しにくいフードを選定し、配管は必ず室外側へ下りこ配(雨水、雪浸入防止)をつける。
(小動物の侵入防止には、ガラリの幅が2cm以下(P-13YS2等)を取付けてください)
- 給気ダクトに塩ビまたは金属製を使用する場合は、必ず消音ダクト(フレキサイルンサー:P-05SDFまたはP-13SD)を挿入する。
(ダクト内共鳴音クレームの原因)

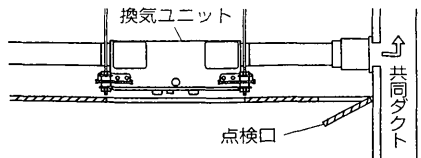
<ドレン配管>

- ドレン配管は凍結防止のため断熱処理を必ず行う。
(水漏れにより天井を濡らす原因)
- ドレン配管は必ず1°以上の下りこ配を付け、断熱層内で配管処理を行う。
(水漏れにより天井を濡らす原因)
- ドレン配管は必ず1°以上の下りこ配を付け、断熱層内で配管処理を行う。
(本体の結露水はドレンパンで受けドレン配管より排水されます)

- ドレン配管の先端は必ず排水可能などところまで導きドレン処理を確実に行う。

規制

●共同ダクトへ排気する場合は、建築基準法施行令により、2mの鋼板立上がりダクトを取付けるか、システム部材の煙逆流防止ダンパーおよびその点検口を設けてください。

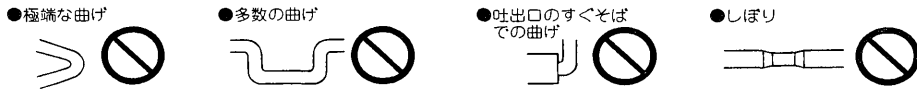


●ジャバラ・不燃ダクトの使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁（特に消防署）にご相談ください。

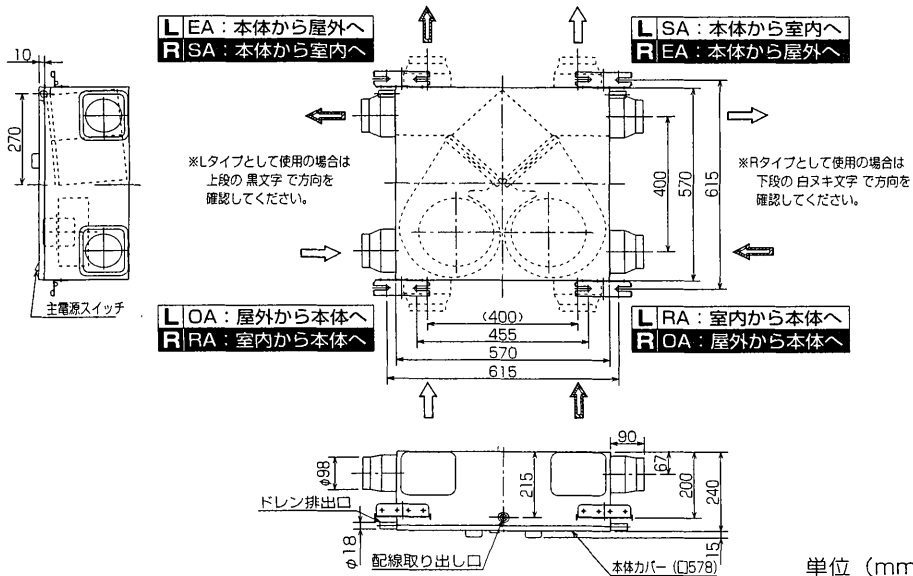
●システム部材の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁（特に消防署）にご相談ください。

お願い

- 天井材は共鳴しにくい材質をご使用ください。
- 本体は寝室の近くに設置しないでください。（騒音クレームの原因）
- 給・排気グリルは反響し難い場所に設置してください。（騒音クレームの原因）
- 寒冷地あるいは風の強い地域では、運転停止時に外風が侵入することがありますので、給・排ダクトの途中に電動シャッターを設けることをおすすめします。
- 給気・排気が混ざらない配管工事を行ってください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。（風量低下や異常音発生の原因）



外形寸法図

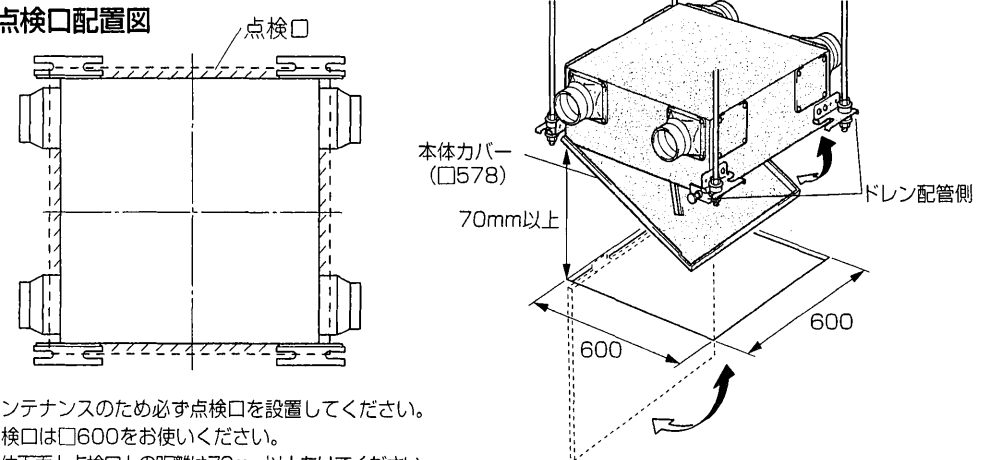


単位 (mm)

付属部品

全機種共通		CZ3タイプ	CZMH-L-Rタイプ	PZMタイプ	CZ3タイプ	CZMH-L-Rタイプ
天吊金具……4個 	ゴムクッション……8個 	ドレンホース……1本 内径φ22 長さ250mm 	ソケット……1個 	帯状断熱材……1枚 	断熱材……1枚 (CZ3タイプ) ……4枚 (CZMHタイプ) 	
取付ネジ (天吊金具用)……8本 	ワッシャー……8個 	ホースバンド……2個 	エルボ……1個 			

点検口配置図



- メンテナンスのため必ず点検口を設置してください。
- 点検口は□600をお使いください。
- 本体下面と点検口との距離は70mm以上あげてください。
- 点検口の中心と本体の中心を合わせて設置してください。（メンテナンスができなくなります）

- 点検口の開閉が本体カバーの開閉と同一方向となるように点検口を設置してください。（開閉の方向が違くと点検が困難になります）

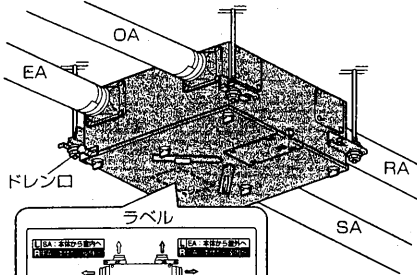
取付例

ダクト接続口の選択

CZ3タイプ、**ZMタイプ**、**PZMタイプ**の場合

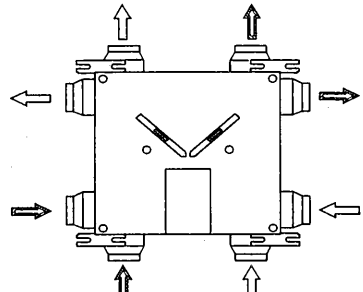
このロスナイセントラル換気ユニットは下図のように、OA→SA、RA→EAの位置を選択できます。

Lタイプとして使用する場合



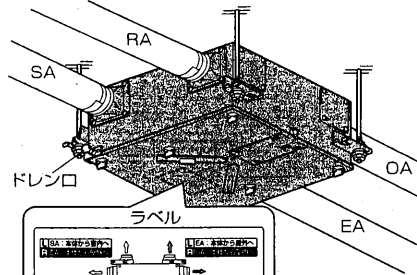
●ラベルに指示された、上段の黒文字で方向を確認してください。

L SA: 本体から室内へ L EA: 本体から屋外へ
R EA: 本体から屋外へ R SA: 本体から室内へ



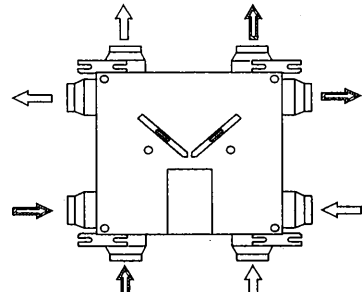
L RA: 室内から本体へ L OA: 屋外から本体へ
R OA: 屋外から本体へ R RA: 室内から本体へ

Rタイプとして使用する場合



●ラベルに指示された、下段の白ヌキ文字で方向を確認してください。

L SA: 本体から室内へ L EA: 本体から屋外へ
R EA: 本体から屋外へ R SA: 本体から室内へ



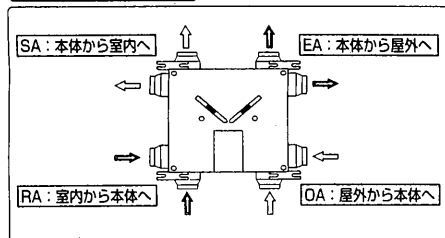
L RA: 室内から本体へ L OA: 屋外から本体へ
R OA: 屋外から本体へ R RA: 室内から本体へ

CZMH-L,Rタイプの場合

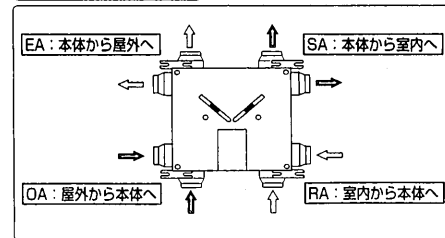
このロスナイセントラル換気ユニットはOA→SA、RA→EAの位置がラベルに指示されています。

位置の選択ができませんのでご注意ください。

CZMH-Lタイプの場合



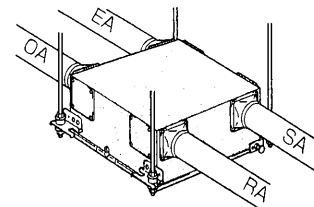
CZMH-Rタイプの場合



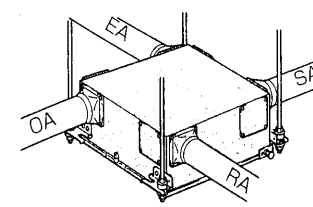
配管方向の確認

このロスナイセントラル換気ユニットは下図のような配管が可能です。(下図はLタイプとして使用する場合)

標準配管



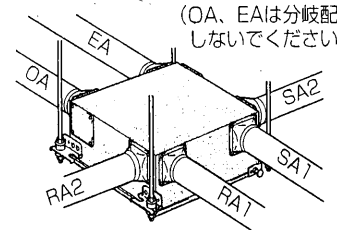
横方向配管



OA、SAを横方向配管した例

本体分岐配管

(OA、EAは分岐配管しないでください)



本体分岐配管を行う場合はシステム部材の2方向分岐用ダクト接続口 (P-150PG) が必要です。

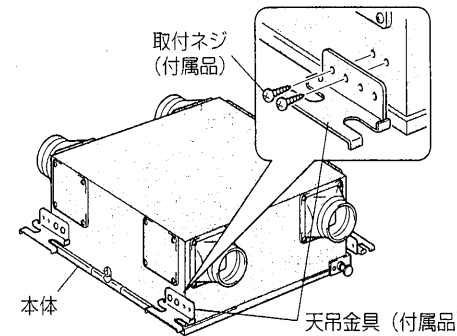
※天地逆取付けはできません。

取付方法

本体の取付け

1 天吊金具の取付け

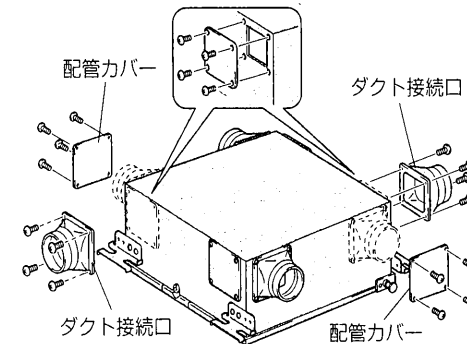
1. 外形寸法図の天吊金具取付位置を参照して市販の吊りボルトを埋め込みます。
2. 本体に付属の天吊金具 (4個) を付属の取付ネジ (8本) で取付けます。

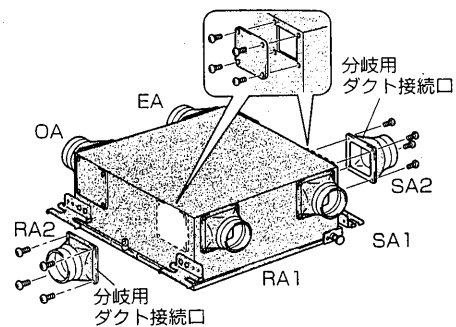


2 ダクト接続口の位置変更

横方向配管をする場合

1. 変更するダクト接続口と配管カバーを本体からはずします。
2. 配管カバーが付いていた位置にダクト接続口を取付けます。
3. ダクト接続口が付いていた位置に配管カバーを取付けます。





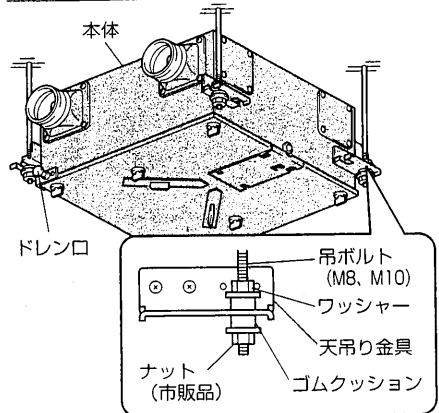
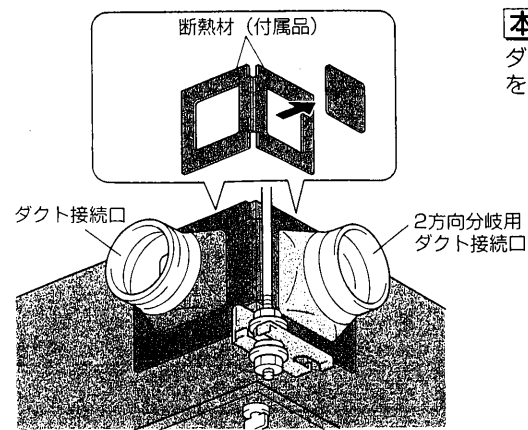
本体分岐配管をする場合

SAとRA配管はシステム部材の2方向分岐用ダクト接続口 (P-150PG) を使用して分岐することができます。

- 1.SA、RA側の配管カバーを本体からはずします。
- 2.2方向分岐用ダクト接続口を配管カバーをはずした位置に取付けます。

本体分岐配管の場合

ダクト接続口に図の形状の断熱材 (付属品) を図のように抜き取り、貼りつけます。



3 本体の取付け

天吊金具を吊りボルトに引っ掛け、付属のゴムクッション、ワッシャーおよびナット (市販品) を使用して固定します。

お願い

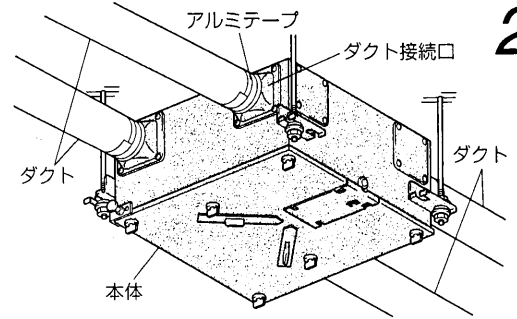
- 本体は、水平から下りこう配 1° (ドレン配管口) の範囲で固定してください。
- 吊りボルトは垂直から ±2° の範囲で設置してください。

2 ダクト配管

- 1.屋外フードまでOA・EAダクトを接続します。
- 2.室内の給排気グリルまでSA・RAダクトを接続します。

お願い

- ダクト接続口とダクトのすき間は、市販のアルミテープなどでふさいでください。
- ダクトは雨水の浸入を防ぐため、屋外に向けて 1/30 以上の傾斜をつけてください。

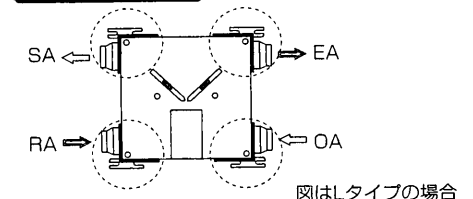


ダクト工事

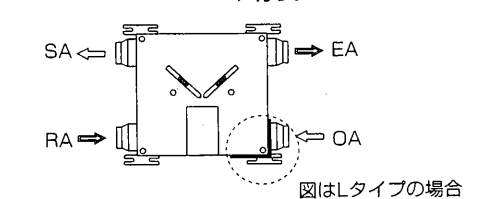
1 ダクト接続部への断熱材貼りつけ

※タイプにより異なりますので、必ず確認してください。

CZMH-L,-Rタイプは各ダクト接続口 (4ヶ所) に行う。



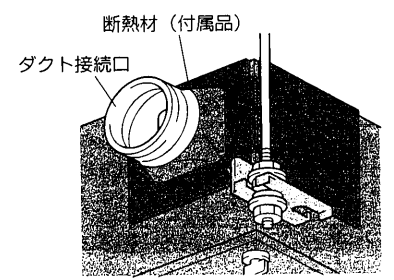
GZ3タイプはOAダクト接続口 (1ヶ所) に行う。



ZMタイプ **PZMタイプ**断熱材貼りつけの必要はありません。

標準配管の場合

ダクト接続口に図の形状の断熱材 (付属品) を貼りつけます。



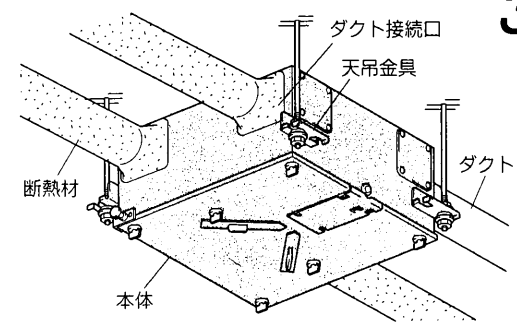
3 断熱処理

ダクト・ダクト接続口は結露防止のため下表に従い断熱処理を施してください。

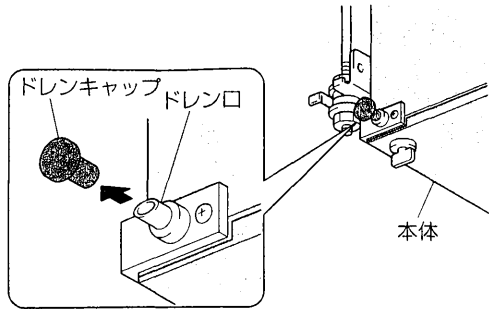
- 隙間ができないように根元まで断熱処理を行ってください。(発泡ウレタンスプレーの吹きつけなど)
- OAダクトはアルミテープを覆うよう帯状断熱材 (付属品) を巻いた後に断熱処理を行ってください。(GZ3タイプ、CZMH-L,-Rタイプのみ)

OA	EA	SA	RA
○	○	○	×

(○: 断熱処理必要、×: 断熱処理不要)



ドレン配管 (ZMタイプはドレン配管は不要です)



1 ドレン口の準備

ドレン配管方向により左右どちらかのドレン口を使用するかを決め、ドレンキャップを取りはずします。

お願い

- 使用しないドレン口のドレンキャップは、はずさないでください。
- 使用しないドレン口のドレンキャップ部にはシールテープやコーキング材でシール処理をしてください。

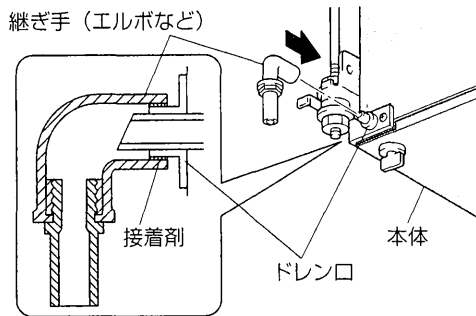
2 ドレン配管接続

使用する配管に合わせ、施工を行ってください。

配管	使用部材	施工法
呼び径13の硬質塩ビパイプ	呼び径16~呼び径13交換エルボ、ソケット(付属品)	①
呼び径16の硬質塩ビパイプ	呼び径16用エルボまたはソケット(市販品)	①
	ドレンホース(付属品)	②
外径22mmの鋼管	ドレンホース(付属品)	②

施工法① 硬質塩ビパイプを使用する場合

1. 呼び径16用の硬質塩ビパイプ継手(エルボ、ソケット)に塩ビ用接着剤を塗布しドレン口に接続します。
2. ドレン水を流れやすくするために硬質塩ビパイプに1°以上の下りこう配をつけて配管します。(こう配がないと、本体より水漏れが発生します)
3. ドレン配管の先端は必ず排水可能なところまで導きドレン処理を確実にを行います。

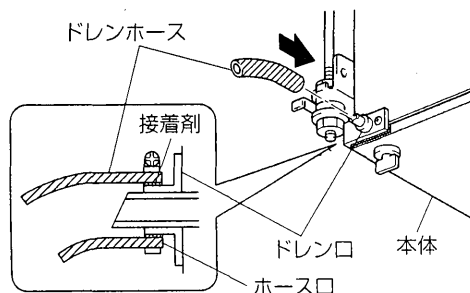


注意

- 凍結防止のため断熱処理を必ず行う。(水漏れにより天井を濡らす原因になります)

施工法② ドレンホースを使用する場合

1. 付属のドレンホースを使用して建築側のドレン配管(鋼管、呼び径16の硬質塩ビ管)に接続します。
2. ドレンホースをドレン口の根元まで確実に差し込み、付属のホースバンドで固定します。
3. ドレンホースは本体より低くなるように配管します。(本体より高くなると水漏れが発生します)



電気工事

■電源の接続・配線工事などは、必ず専門の電気工事店へご依頼ください。

警告

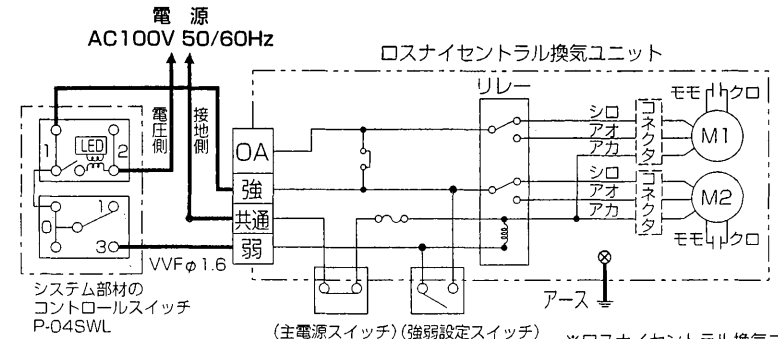
- 交流100Vを使用する。(直流や交流200Vを使用すると火災・感電の原因)
- 指定の電線を使用して、抜けないよう確実に接続する。(接続に不備があると火災の原因)
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う。(接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因)

- アースを確実に取付ける。(故障や漏電のときに感電することがあります)

■結線図…※太線部分を結線してください。

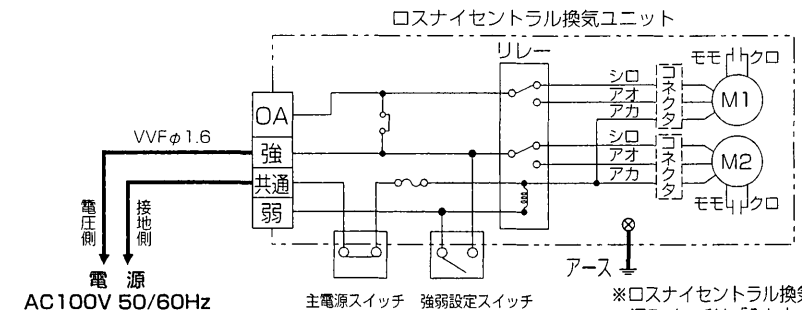
CZ3タイプの場合

① システム部材のコントロールスイッチを使用する場合



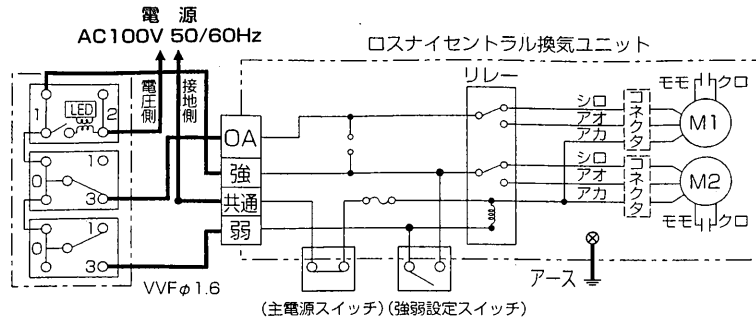
※ロスナイセントラル換気ユニットの主電源スイッチは「入り」、強弱設定スイッチは「強」に設定すること。

② 本体スイッチを使用する場合



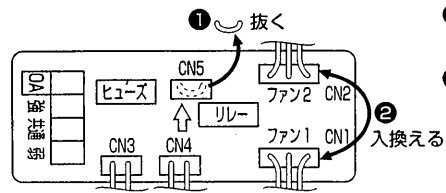
※ロスナイセントラル換気ユニットの主電源スイッチは「入り」、強弱設定スイッチは「強または弱」に設定すること。

③ 電源入り、強弱切換え、給気入切りの全てを壁スイッチで操作する場合



※ロスナイセントラル換気ユニットの主電源スイッチは「入り」、強弱設定スイッチは「強」に固定すること。

給気入切りの全てを壁スイッチで操作する場合のご注意



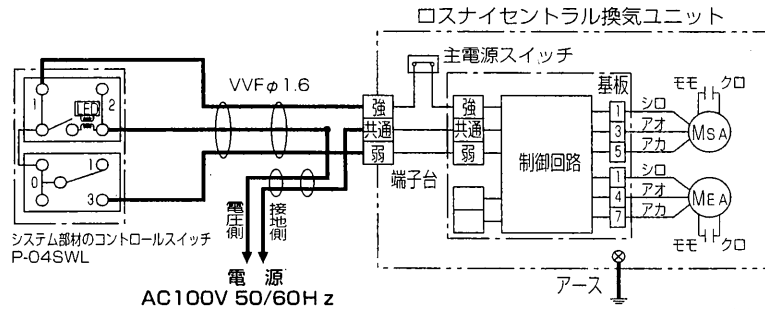
- ① 基板上的白い矢印(→)で示されたコネクタ(CN5)を抜いてください。
- ② Lタイプで使用(ダクト接続口のラベルは黒文字(上段)で表示)する場合、ファン1、ファン2のコネクタを入れ換えてください。
※Rタイプで使用(ダクト接続口のラベルは黒地に白文字で下段に表示)する場合、入れ換える必要はありません。

お願い

- OA—強、強—弱間にAC100V印加は絶対におやめください。
(製品内の回路基板を損傷する場合があります)

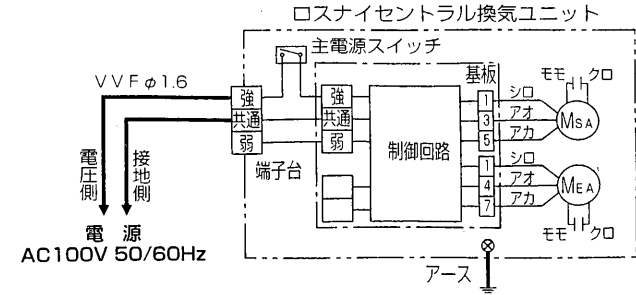
CZMH-L,-Rタイプの場合

① システム部材のコントロールスイッチを使用する場合

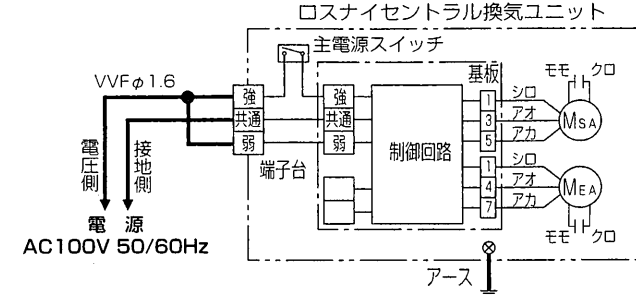


※ロスナイセントラル換気ユニットの主電源スイッチは「入り」に固定すること。

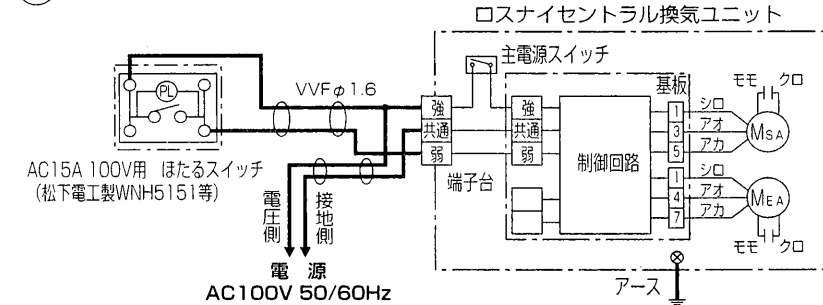
② 本体スイッチを使用する場合(強ノッチ固定)



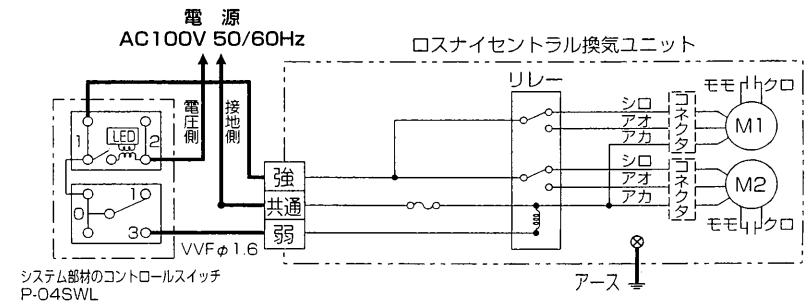
③ 本体スイッチを使用する場合(弱ノッチ固定)

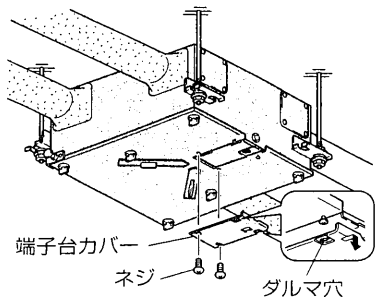


④ 強弱切換えのみ壁スイッチで操作する場合



ZMタイプ、PZMタイプの場合





1 端子台カバーの取りはずし

1. ダルマ穴のネジ2本をゆるめます。
2. ネジ2本をはずし端子台カバーをはずします。

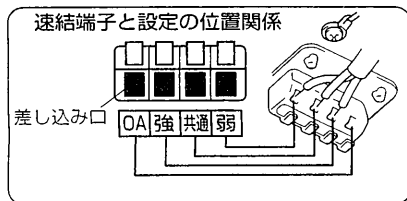
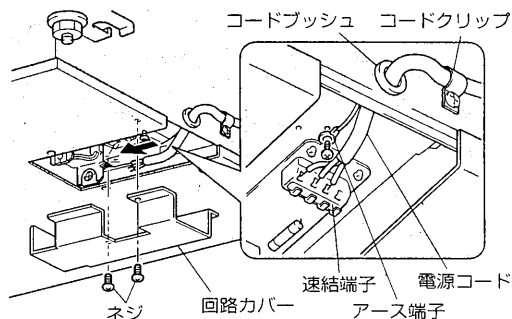
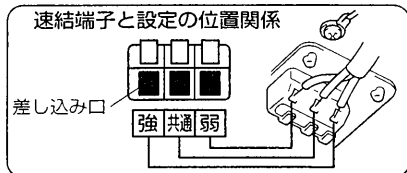
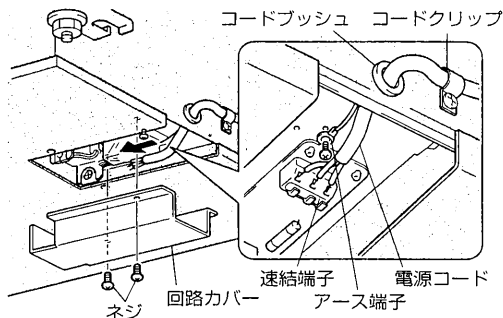
お願い

- ネジ、端子台カバーは結線後必要ですのぐさないう保管しておいてください。
- 電線径はφ 1.6mm 単芯を使用してください。(φ 2.0mm は使用できません)

2 結線をする

ZM タイプ, PZM タイプ の場合

1. ネジ2本をはずし、回路カバーをはずします。
2. 電源線・コントロールスイッチからの電源コードをコードブッシュを通して本体内に引き込みます。
3. ストリップゲージに合わせて先端10mmの皮むきをし、結線図及び左図を参照して速結端子に確実に差し込みます。
4. 電源コードをコードクリップで固定します。
5. アース端子を使用してアース工事（第3種接地工事）を行います。
6. 結線後、軽く引っ張って抜けないことを確認し、回路カバー、端子台カバーを元通り取付けます。



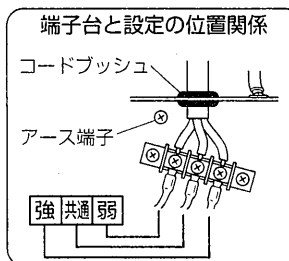
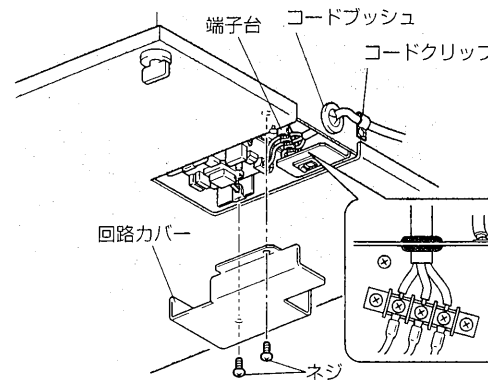
CZ3 タイプ の場合

1. ネジ2本をはずし、回路カバーをはずします。
2. 電源線・コントロールスイッチからの電源コードをコードブッシュを通して本体内に引き込みます。
3. ストリップゲージに合わせて先端10mmの皮むきをし、結線図および左図を参照して速結端子に確実に差し込みます。
4. 電源コードをコードクリップで固定します。
5. アース端子を使用してアース工事（第3種接地工事）を行います。
6. 結線後、軽く引っ張って抜けないことを確認し、回路カバー、端子台カバーを元通り取付けます。

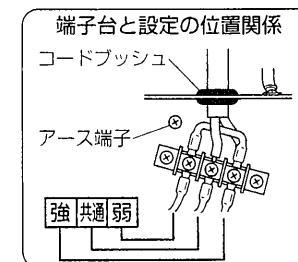
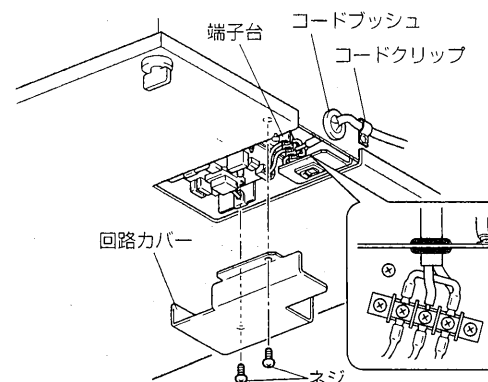
CZMH-L,-R タイプ の場合

1. ネジ2本をはずし、回路カバーをはずします。
2. 電源線・コントロールスイッチからの電源コードをコードブッシュを通して本体内に引き込みます。
3. 電源コード先端の皮むきをし、結線図および左図を参照して端子台に確実に接続します。
※本体スイッチを使用する場合（弱ノッチ固定）は左図端子台の“強”と“弱”を接続します。（めがね端子等）
4. 電源コードをコードクリップで固定します。
5. アース端子を使用してアース工事（第3種接地工事）を行います。
6. 結線後、軽く引っ張って抜けないことを確認し、回路カバー、端子台カバーを元通り取付けます。

●システム部材のコントロールスイッチを使用する場合
●本体スイッチを使用する場合（強ノッチ固定）



●本体スイッチを使用する場合（弱ノッチ固定）



据付工事後および試運転の確認

3 給気ファン停止機能有無の設定

CZMH-L-Rタイプのみ

給気ファン停止機能「無」の場合、下記の運転を行います。

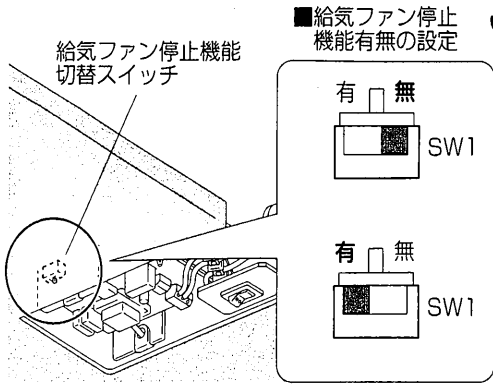
給気ファン停止	間欠運転 (50分運転 10分停止)	連続運転
外気温度	外気温度	外気温度
-15℃以下	-10℃~15℃	-10℃以上

給気ファン停止機能「有」の場合、下記の運転を行います。

給気ファン停止	間欠運転 (50分運転 10分停止)	連続運転	給気ファン停止
外気温度	外気温度	外気温度	外気温度
-15℃以下	-10℃~15℃	-10℃~0℃	0℃以上

メモ

- 排気ファンは外気温に関係なく連続運転します。
- 給気ファン停止中も外気温測定のために一時的に運転をすることがあります。



電圧チェック表

コントロールスイッチを使用する場合

モード	スイッチ操作	端子間電圧	チェック欄
停止	切	強-共通	0V
	弱	強-弱	0V
停止	切	共通-弱	0V
	強	共通-弱	0V
強運転	入	強-共通	100V
	強	強-弱	100V
強運転	入	共通-弱	0V
	弱	共通-弱	0V
弱運転	入	強-共通	100V
	弱	強-弱	0V
弱運転	入	共通-弱	100V
	弱	共通-弱	100V

本体スイッチを使用する場合

端子間電圧	チェック欄
強-共通 (弱はオープン)	100V

※測定した電圧が異なる場合は、誤配線されていると考えられます。通電を停止して、結線図に基づき結線をやり直し、再度チェックをしてください。
※端子間電圧は、電源電圧の変動により若干異なる場合があります。

	チェック項目	不具合時の対策	チェック
本体設置	本体及びダクト配管は断熱層・気密層の内側ですか？	断熱層・気密層の内側にする。	
	本体は水平から±1°の範囲で設置されていますか？	±1°の範囲で設置する。	
	点検口は指定の位置に設置しましたか？	指定の位置に設置する。	
据付工事	ダクトは雨水の浸入を防ぐため、屋外向かって1/30以上の傾斜をつけましたか？	傾斜をつけて設置する。	
	ダクト接続口は根元まで断熱しましたか？	断熱処理する。	
	ダクト内に切り粉や異物（紙・ビニールなど）が入っていませんか？	異物などを取除く。	
	ダクトは還気（RA）を除いて断熱されていますか？	還気（RA）ダクト以外は断熱する。	
	本体及びフリルにダクトが接続されていますか？	ダクトを確実に接続する。	
	ドレン配管は凍結防止のため断熱処理を行いましたか？	断熱処理する。	
ドレン配管	ドレン配管は1°以上の下りこう配を付け、断熱層内で配管処理を行いましたか？	下りこう配をつけ断熱処理する。	
	ドレン配管の先端は排水可能などころまで導き、ドレン処理を行いましたか？	排水可能などころでドレン処理を行う。	
	電源電圧を確認する。	交流100Vを接続する。（異電圧を印加すると製品が破損します。）	
試運転	正常な運転が行えるか確認する。（風量切換スイッチで「強運転」、「弱運転」の切換ができるか？）	配線を確認する。	
	給気停止表示ランプが点滅する。	端子台カバーをはずし、基板上的コネクタCN1とサーミスタを確実に接続する。	
	異常な振動や騒音がないか確認する。	天吊金具や吊ボルトがゆるんでいたら固定し直す。	
	各グリルから給気または排気されているか確認する。	ダクトが外れかかっていたら接続し直す。	
		異物があれば取除く。	
		ダクトが外れていたら接続する。	
	ダクトが極端に曲がっていたら修復する。		

お客さまへの説明

- ブレーカーとスイッチの位置と除じんフィルターの清掃のしかたをお客さまへ説明してください。
- チェック表の結果をお客さまへお知らせください。
- この「取付工事説明書」は、別冊の「取扱説明書」とともにお客さまへお渡しください。
- お客さまが不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理者へ説明してください。



中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号 電話 0573-66-2111

この説明書は、再生紙を使用しています。